



(茨木市章)

(ミネアポリス市章)

姉妹都市

ISCPA

ニュース

協会報

創刊号

昭和56年5月1日発行

編集発行

茨木市姉妹都市

提携協会

つづつて保存しましょう



▲永遠の契りに署名する
ドナルド・M・フレーザー市長と
重富敏之市長



ミネアポリス市姉妹都市協会
ジョアン・H・ポリブカ会長▶

発刊に

会長

重富 敏之

(茨木市長)



昨年は、広はんな市民各界各層のご理解と積極的なご参加をいただき、当「茨木市姉妹都市提携協会」が設立され、その後、本市とアメリカ合衆国ミネソタ州のミネアポリス市との間に、姉妹都市の盟約が結ばれました。

これは、まさに、国際感覚に満ちた市民社会の形成と、豊かな市民文化の開花をめざす第一歩であり、“21世紀の茨木”への胎動でもあります。そして、ミ市親善訪問団一行の足跡が、幅広い市民外交の始まりとなり得ましたことは、私たち市民にとりまして大変喜ばしいことであります。

さらに今、協会報『姉妹都市ニュース』創刊号をお届けすることになりましたのも、関係各位の温かいご指導とお力添えのたまものと、心からお礼申し上げる次第であります。

本年は、ミネアポリス市長をはじめ、姉妹都市協会会長ら一行の本市訪問が予定されており、現在、両市協会における交流企画委員会で、具体的な検討が進められているところであります。

今後は、協会を中心として、市民レベルの文化、経済、スポーツ等の交流をはかることにより、青少年や市民団体等の人的交流の深化、相互の友好親善と世界平和に寄与するものと確信いたしております。

世界に目を向け、他国を知ることは、日本を知り、郷土茨木を再発見することにもなりましょう。

本協会報が、会員相互の親睦と理解のみならず、真の福祉社会、文化都市建設の一翼を担い、国際社会に大きくはばたかれる“かけ橋”となることを願い、創刊に際してのごあいさつといたします。

副会長

石井 巖

(茨木市議会議長)



「姉妹都市ニュース」の創刊にあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

現在、わが国は、世界各国の協力を得て大量の資源、資材を輸入し、それを高度な技術を駆使し、自動車、カラーテレビに代表される優秀な工業製品を輸出するという貿易立国として、孤高の繁栄を続けているところであります。このようなわが国の現状を見るとき、今後とも諸外国の人々との間に正しい理解と友好親善関係を結ぶことなくして、日本の繁栄はあり得ぬものと考えます。

ところが遺憾ながら、現状は、「エコノミックマニュアル」、また、「兎小屋の日本人」などと酷評され、しかも、識者から一様に「日本人は、国際感覚に欠けている」と指摘されている悲しさであります。

このような時期に、ミネアポリス市と姉妹都市提携が結ばれ、国際都市の仲間入りができたことは、誠に喜びに耐えません。今後、当協会が中心となり、国際感覚の涵養を通じて他国との友好と市民レベルの親善を図り、都市相互並びに両市市民相互による、文化、学術、経済の交流を通して世界の平和に寄与し得るものと思います。とりわけ、青少年の健全な成長を願うことは、当協会に課せられた大きな使命であると考え、この分野においても、会員各位の絶大なるご協力をお願い申し上げます。

創刊された本協会報が、会員間のきずなを強め友好と親善の媒体として十分機能し、親しみやすく、読みやすい友情誌として、ますます発展することを祈念し、私のごあいさつといたします。

際して

副会長

上田 秀一

(茨木商工会議所会頭)
茨木フェスティバル
協会会長

国際感覚に満ちた市民社会を形成し、豊かな市民文化の開花を願って、市制施行30周年記念行事の一つとして、海外都市との提携がとり上げられ、これが具体的検討のため、懇談会が設けられ私もメンバーの一人として参加させていただきました。

この懇談会で、まず西ドイツのリューベック市が提携先として選定され、53年7月以来提携を深める接触が続けられておりますが、これとは別にわが茨木市と友好を深めたいと希望するアメリカのミネアポリス市から提携のための訪問要請があり、昨年10月、市長をはじめ市民代表による親善訪問となり、姉妹都市提携が調印されました。この提携実現を前に市民各層の参加と協力のもと、姉妹都市提携を積極的に推進していく母体として茨木市姉妹都市提携協会が発足したのであります。

今日、経済界における貿易摩擦や資源エネルギー問題等の国際化の荒波を乗り越えていくには、世界的視野に立った物の考え方が必要であり、それには、国や企業のみならず国民＝市民が国際感覚を身につけることが大切だと思います。この意味において海外都市との友好提携は、市民各位が教育、文化、スポーツ等幅広い分野での交流により相互理解の輪を拡げ、また、百聞は一見に如かずの諺どおり、相互訪問などにより、自分の目で確め得る、誠に有意義なことであると存じます。

市民各位には、当協会へ多数参加、協力されんことを要請するとともに、この会報が、そうした友好提携活動推進の機関紙として、また会員相互のコミュニティの場として活用され、充実していくことを祈念して、ごあいさついたします。

副会長

高島 信義

(茨木市社会福祉)
協議会会長

最近、政治、経済、文化等すべての活動が急激に国際化し、世界化しつつある社会趨勢下において、国家はもとより自治体も個人も井蛙的存在であってはならないのは当然である。わが茨木市の発展をさらに進めるためには、行政各位並びに市民の平素の努力と協力が必要なことは申すまでもないが、視野を高くし、広く範を他市に求め、進んで諸外国に「他山の石」を探る賢明さが要望される。

昨年、茨木市姉妹都市提携協会が設立されたことは、この意味において重要なことであり、ご同慶に堪えないところである。ただ、市民の一部には、この協会の今後の価値性について危惧する者があるのではないかと案ずるものであるが、要は、今後、同協会の優れた運営によって、表面的な親善、交流にとどまらず、市民生活向上に、より高次な効果をもたらすか否かであると思う。

また、わずか数日の海外旅行によってさえ「所変れば、品変る」の感を強くするものであるが、姉妹都市と深く結びつき、われわれの行政、市民生活、家庭生活や青少年教育等々、彼等のそれと比較し、互いに語り合い、批判し合うことによって、国内では得られない、われわれを磨く尊い宝石が獲得できるのである。この宝石は、市庁舎の飾棚に飾るものでなく、市民おのおの身につくものでなければならないはずである。

今回、協会誌の発刊を見ることは、市庁舎から市民へのリレー役を果たし、市民生活向上へのだてとなるものであることを信じ、大きな期待をかけている。何卒、本会報を通じ少しでも多く市民生活に潤いを増すことを念願する次第である。

姉妹都市提携の概況

1 都市提携の歴史

姉妹都市提携の動きは、国際的には二つの流れがあります。一つはアメリカを中心としたもので、第二次世界大戦後、アメリカの都市とフランスの都市が仲よしの宣言をしたのが、姉妹都市提携の始まりであるといわれています。

戦禍のあとも生々しい、ヨーロッパの惨状を伝え聞いたアメリカ市民の間に「荒廃したヨーロッパを救おう」という声が盛り上がり、これを背景として1956年故アイゼンハワー大統領が“都市提携運動”—People-to-People Program—を提唱したことによって、さらに拍車がかけられたもので、市民自身の手によって励ましの手紙や贈物がなされ、援助の手がさしのべられました。この援助と感謝の交歓を通して両市民の間に友情が高まり、やがてそれが姉妹提携へと発展しました。その後、姉妹都市運動は次第に広がり、中南米、アジア諸国にも広がったものです。

いま一つは、パリに本部を置くUTO（国際姉妹都市連合）の運動であります。先進国と発展途上国が都市市民の提携により文化・経済・技術上の援助をねらいとしたものであり、西欧各国とアフリカ、東欧圏の都市提携が中心といわれています。このように姉妹都市提携の運動は、世界の諸都市間に広く行われるようになり、市民相互の理解親善を深め、文化・学術・経済の交流を盛んにし、ひいては国際親善、世界の平和に寄与しようとしています。

わが国では、1955年（S30年）に、国連事務局の斡旋で長崎市がアメリカのセントポール市と姉妹都市の提携を結んだのをはじめとし、S55年までに全国で187都市57町村が37カ国323都市と提携していて、今後ますます増える傾向にあります。

2 目的と意義

都市提携とは、規模や性格の似ている二つの都

市の市民が、人種や国境を越えた友情によって固く結ばれ、文化や経済の交流を通じて相互の理解を深め、国際親善と世界平和に役立てようとするものです。しかもこの交流が、国家間の外交という形式を離れて純粋に民間の運動として行われるところに都市提携の大きな意義があります。

ジェット機の発達によって世界はますます狭まくなりつつある今日、異なる国籍の人々の間に互いの持味を発揮する人間関係が深まりつつあります。“都市提携”は悲惨な戦争などがきっかけとなって生まれただけに、これを基盤として世界市民の心のなかに「平和の砦」がますます強化されなければなりません。

3 動機と提携

戦後、わが国の外交は、敗戦、占領の後遺症から永く自主性を失い、国連中心の平和外交といわれており、国際感覚の乏しさと経済偏重の姿勢が内外から厳しい批判を浴びてきました。一方民間の国際交流は年とともに活発化しており、なかでも姉妹都市提携を中心とした都市自治体と市民による交流は、イデオロギーや政治的利害をこえて広がり、国際親善と友好平和の基礎となっております。こうした都市・市民の交流は、文化・スポーツ・経済など、さまざまな分野で国家レベルでの不足を補い、国家間の利害を和らげ、最近では国交回復の道を開くなど、先駆的役割も果たしており、都市市民外交として改めて評価されております。

こうした観点から、茨木市でも市制施行30周年という記念すべき年を迎えたことを契機として、広く海外に目をむけ、姉妹都市提携を通して市民の国際感覚を養うとともに、文化・学術・経済の交流を図り、両都市間の友好親善を通じて国際親善、ひいては世界の平和に寄与したいとの念願から都市提携行事を企画したというのが動機であります。

4 わが国の姉妹都市提携状況

(1) 全国市町村相手国別姉妹提携数 (S55.4.1現在)

(提携都市数 262市
提携町村数 61町村)

相手国	提携数	相手国	提携数	相手国	提携数
アメリカ合衆国	135(24)	オランダ	4	東ドイツ	1(1)
カナダ	13(3)	スイス	4(3)	オーストラリア	10(2)
ブラジル	26(5)	ベルギー	3	ニュージーランド	3
メキシコ	5(2)	ポルトガル	3	中国	14
パラグアイ	2	ノルウエー	2(2)	韓国	10(3)
コスタリカ	2	スペイン	2	フィリピン	10(3)
チリ	1	ポーランド	1(1)	ベトナム	2(1)
パナマ	1	ブルガリア	1	トルコ	2(1)
ソビエト連邦	18(1)	スウェーデン	1	インド	1
フランス	13(2)	イギリス	1	スリランカ	1
西ドイツ	10(2)	ルーマニア	1	エジプト	1
オーストリア	9(4)	ユーゴスラビア	1		
イタリア	8	イスラエル	1(1)	計 37カ国	323(61)

()内は町村で、提携数の内数

(2) 大阪府下市・町の姉妹都市提携状況

市・町名	提携先	市・町名	提携先
大阪	サンフランシスコ (アメリカ合衆国)	堺	パークレー (アメリカ合衆国)
	サンパウロ (ブラジル)	豊中	サン・マテオ ()
	上海 (中国)	池田	ローンセストン (オーストラリア)
	メルボルン (オーストラリア)	貝塚	カルバー・シティ (アメリカ合衆国)
	レニングラード (ソビエト連邦)	八尾	ベルビュー ()
東大阪	ウェディング特別区 (西ドイツ)	富田林	ベスレヘム ()
	グリーンデール (アメリカ合衆国)	高槻	マニラ (フィリピン)
守口	ニューウェストミンスター (カナダ)	摂津	バーバートン (アメリカ合衆国)
	スエズ (エジプト)	茨木	ミネアポリス ()
門真	アイントハーベン (オランダ)	狭山	オンタリオ ()

ミネアポリス市との姉妹都市

★茨木市の姉妹都市提携のあけぼの

茨木市は、昭和53年1月1日に市制施行30周年という記念すべき年を迎えました。そして、11月に挙行される記念行事に向けて、着々とその準備が進められていました。ちょうどそんな時期、「茨木市も、今や21万余の人口を擁する中堅都市、ここらあたりで将来のためにも国際都市の仲間入りをしては」というような声が、市民の中からわき上がってきました。

これを受けて、茨木市では、30周年記念事業の一環として「海外姉妹都市提携事業」が企画されたのであります。このため市では、部課長で構成する「海外友好都市提携事業専門委員会」が組織され、具体化の検討がなされました。そして「この事業は、市民の手で進めるべきだ。」という一定の結論が出され、市民各界各層の理解と賛同を得て、昭和53年5月、「海外姉妹都市提携事業に関する懇談会」の設置を見るに至りました。ここに、海外姉妹都市提携への道が開かれたのであります。

★西ドイツ・リューベック市との交流

この事業を実現するため、懇談会は何回も開催され、種々検討が加えられました。そしてまず第一候補都市として、西ドイツのリューベック市が選ばれました。それ以後今日まで、両市の友好を深めるためのあらゆる努力が行われてきました。

こうした努力により、昭和53年8月、重富市長のリューベック市訪問、昭和54年11月、リューベック市商工会議所会頭らの茨木市訪問、また、両都市の市民相互による訪問が展開されるなど、民間における親善交流が続けられています。

★アメリカ・ミ市とのきっかけ

ミネアポリス市との姉妹都市提携のきっかけは、市内でドーナツショップを経営する井上 香氏の

善意からはじまりました。

同氏が、「常々茨木市には何かとお世話になっている。この際何かお役に立つことはないだろうか」と考えていた時、新聞紙上で、茨木市が海外姉妹都市提携の相手方を探しているということを知りました。そこで「茨木市が国際社会の仲間入りをすることには大賛成だ。是非実現を図るべきだ。」という観点から、同氏は、54年2月、自社の親会社である米国ミネソタ州ミネアポリス市に本社を有するインターナショナルマルチフーズ（株）に「ミネアポリス市と茨木市が姉妹都市として友好関係を結んでどうか、同市の意向をたずねてほしい。」という照会文を送付しました。

これに対し、同社から「姉妹都市の件、喜んでお手伝いさせてもらう。早速ミネアポリス当局に照会したところ、市では、かねてからしかるべき日本の都市との姉妹都市提携を希望していたので、茨木市との姉妹都市の話、大変喜んでいる。」というテレックスが入りました。そして数日後、ミネアポリス市の紹介文書を送付してきました。

これが、ミネアポリス市との提携の発端です。

★ミ市長の意向を携え、IM副社長が重富市長を表敬訪問

その後、両市の紹介文書が何回か交換されるなど、一定の動きが見えてきました。そして、同年3月20日には、インターナショナルマルチフーズのデバノンスキー副社長夫妻が、茨木市役所に重富市長を表敬訪問され、「茨木市に用意があるなら、ミネアポリス市は姉妹都市提携を希望している。」というミネアポリス市長の意向を伝えました。

★ミ市姉妹都市協会会長への親書

茨木市は、ミネアポリス市との事務折衝を図るため、ミネアポリス市姉妹都市協会会長であるジョアン・ヒッケイ・ポリブカ氏あて親書を送付し

提携調印までのあゆみ

ました。

その内容は、提携後における具体的な交流内容について同市はどのように考えているのか。また本市の考えを整理し、なお一定の条件整備が必要なことを説明するとともに、ミネアポリス市の真意を照会したものです。

★重富市長への親書

これを受けてミネアポリス市では、1年8カ月の間、茨木市について相当研究がなされたようがあります。その研究の過程で、愛媛県松山市が、ミネアポリス市との縁組を熱心に希望したというような経過もあったようですが、結局、茨木市との提携に落ち着いたということです。そして昨年5月、ミネアポリス市において「ミネアポリス市・茨木市姉妹都市委員会」が組織され、具体的交流内容、方法など、提携への準備が進められてきました。

その結果、同年9月16日、ポリブカ姉妹都市協会会長から「ミネアポリス市議会は、茨木市との姉妹都市提携を決議、また、重富市長ご夫妻を10月21、22、23日の3日間ご招待したい。」という親書が届きました。

★「茨木市姉妹都市提携協会」を発足

茨木市では、早速「海外姉妹都市提携事業に関

する懇談会」を開催し、意見を求めるとともに市議会の指導と助言を得ながら、その対応策を種々検討しました。その結果、「西ドイツ・リュベック市との姉妹都市提携への友好親善は、今後ともひき続き深めていくとともに、今回のアメリカ合衆国ミネアポリス市との都市提携については、これを成就させ、正式な姉妹都市関係の成立を期すべきである。」という結論に達しました。

ここに10月2日、「茨木市と外国都市との姉妹都市提携に伴い、両市間における市民文化の交流を深め、両市民の理解と連帯を密にし、相互の友好親善と市民外交の促進をはかり、両国の友好親善に寄与する」ことを目的として『茨木市姉妹都市提携協会』が発足したのであります。

★永遠の契りに両市長が署名

こうしたミネアポリス市からの招待に対し、茨木市は受諾の意向を示すとともに、同年10月17日に市議会においてミネアポリス市との都市提携に関する議決を得、正式に重富市長夫妻ら親善訪問団の派遣を決定しました。こうして親善訪問団一行はミネアポリス市を訪問、10月22日、フレイザー・ミネアポリス市長と重富茨木市長とが、両市の「姉妹都市提携盟約宣言書」に署名し、ここに永遠の契りがかわされたのであります。

盟約宣言

日本国茨木市とアメリカ合衆国ミネソタ州ミネアポリス市は、両市間における市民文化の交流を深め、両市民の理解と連帯を密にし、相互の友好親善と市民外交を促進され、両市勢の伸展と市民福祉の向上に寄与することを企圖するとともに、日米両国においては、世界の平和と人類の福祉に貢献することを確信し、ここに両市の姉妹都市として提携することを盟約する。

このあかしとして、1980年10月22日茨木市とミネアポリス市の代表者はここに署名する。

茨木市代表

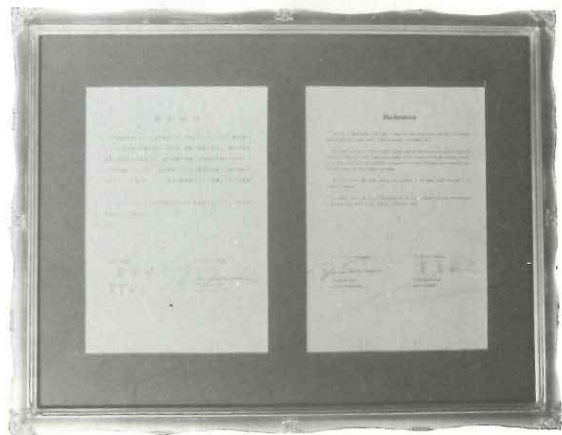
(署名)

重富敏之

ミネアポリス市代表

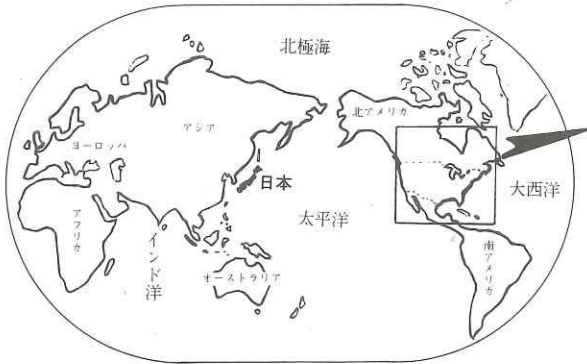
(署名)

ミネアポリス市長
ドナルド・フレイザー

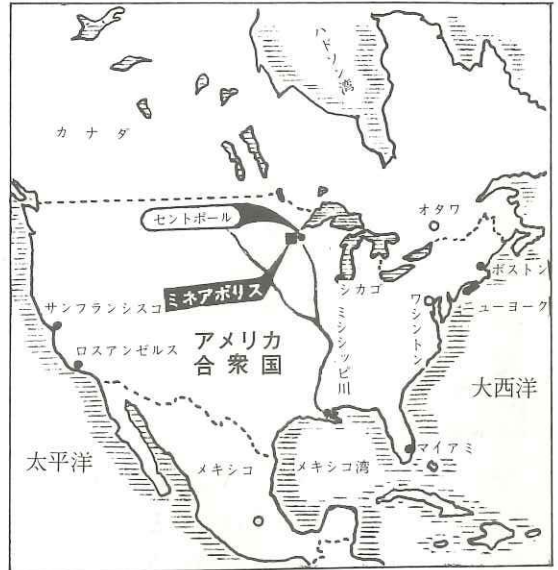


ミネアポリス市の プロフィール

豊かな緑と 雄大な自然にはぐ



ミネアポリス市は、西経93度15分、北緯44度59分、ミネソタ州の南東部に位置し、気候は、大陸的で雨量が少なく、平均気温が冬マイナス11℃、夏23℃という北海道旭川地方とよく似ています。市域の面積は143.7km²で、茨木市の約2倍にあたり、ミシシッピ川によって西の大きな地域と東の



小さな地域とに2分されています。

この市は、1867年（慶応3年、江戸時代末）に人口2万の市として誕生し、市名は、インディアン語のミネ（水の意味）とギリシャ語のポリス（都市の意味）を組み合わせたものです。現在では、人口約38万を擁し、水・陸・空の交通の要衝として、さらに、豊かな自然に恵まれた生活のまち、学術、芸術に親しむ文化のまち、活気に満ちた産業のまちとして発展をつづけています。



中高層ビルがたち並ぶ市中心部——中央に冬季市民の主要な通路となるスカイウェイが見える。



欧州風の重厚な構えを誇る市庁舎

湖のまち くまれた近代都市

minneapolis
city of lakes



『水の都』という名のとおりに、市内にある美しく豊かな緑に恵まれた22の湖をはじめ、州内とその東側に広がる2万5千の湖水地方への玄関口ともなり、別名「余暇の首都」と呼ばれています。

◀ 湖に憩う市民



道路網の整備や自動車の普及などにより、近年のわが国と同様、住居はどんどんと郊外へ移り、周辺部には、大規模な建売住宅が静かなたたずまいを見せています。

豊かな自然に取り囲まれ、ゆったりとした個性あふれる住宅街 ▶



この地方はミシシッピ川が生んだ世界有数の穀倉地帯であり、この市もかつては“世界の小麦粉都市”と呼ばれていました。今でも、製粉業は市の中心産業の一つとなっています。

はるかなる地平線——限りない明日への可能性——



ミネアポリ

昭和55年10月21～23日の間、ミネアポリス市を親善訪問をいたしました一行18人のうち、紙面の都合により次の三氏に執筆していただきました。



椎原 末敏

(市議会議員)
(前市議会議長)

◀ 姉妹都市委員会
委員長フランコ
ーブ女史と共に
(イレイン画廊で)

私の初めての海外旅行が、この栄えあるミネアポリス行きとなったことは、感慨深いものがあります。100年昔、私たちの先輩たちが、文明開化の波を求めて、イギリスへ、アメリカへと万里の波濤を乗り越えて洋行した苦勞と心構えが、しみじみと味わえました。

飛行機で2日——。ミネアポリス市は、静かに私たちを迎えてくれた。公園の中に街があるような、美しい豊かな都市だった。

ごみと立看板のないのが、まず目につく。

広々とした街なかを、人々はゆったりと往き來していた。幾つも市内にある清らかな湖の周囲をのどかに市民が散歩していた。

同じ都市でも、茨木市とは全く違った落ちつきを持っている。

いい都市と姉妹都市になれたものだ、と心から喜ぶことができた。

姉妹都市協会の方々も、熱心に歓待してくださいました。朝早くから、夜遅くまで——。

本当に、ありがとうございました。

そして、女性の方が男性と同様に、どんどん社会で活躍しておられる様子を見て、なるほど、男女同権とはこんな状態なのか、と感心させられました。市議会議長も女性、姉妹都市協会の会長も女性、市役所や会社の事務所でも半数は女性でした。

いろいろと学ぶところが大きいと思います。両市のますますの発展を心から祈念して。



井岡千代子

(茨木消費者
協会会長)

◀ 調印式会場へネ
ピンアートセン
ターでの一時
(写真中央が)
井岡さん

姉妹都市提携親善団の一員として参加し、市内の様、行政、市民生活等の一端を見聞した。その中から深い感銘を得たもの二、三を紹介しよう。

市内は、誠に美しく整然として、ゴミ一つ落ちていない。まずその姿に驚く。就中市内の諸企業は立派で、利潤追求だけでなく、市の繁榮、文化、芸術等市民生活に深く係わっていることが感知できた。すなわち、友好親善の担い手は市民であり、市内諸企業が大きく支え、社会的責任を果たしているのである。民主主義の理念が深く根をおろし、行政と市民と企業の役割分担が確立され、バランスよく運営されていることに深い感銘を覚えた。

こうした中で女性の進出もめざましく、同行の男性諸君も見直しておられた。市議会議長も姉妹



ス市訪問記

都市協会の会長も女性で、その他の分野でも重要なポストについて、立派に役割を果たしておられる。地球の全人口の二分の一が女性であり、総労働の三分の二を支え、富資産の所有率二十分の一という中で、暴力から女性を守る現代の“かけこみ寺”が公的施設としてどこにも設置されているときく。そこでは、保護、相談だけでなく、将来の自主独立をめざして息長く面倒が見られているようだ。このようなアメリカ社会を見て、国際婦人年の意義と課題を改めて深く考えさせられた。生活は誠に質素で、服装や食事も合理的である。

なお、今回の親善訪問の案内をしてくれた一世、二世の在留邦人が国際人として各々たくましく活躍されている姿を見て、しばし感激させられた。



藤本 毅

(茨木ライオン
ズクラブ会長)

◀日本人画家山形道博氏(左)の個展会場(イレイン画廊)で

1980. 10. 19 夜 成田から機上の人となり、ホノルル、ロス経由後、ミネアポリス市に入った。とにかく遠い所だ。ミネアポリス空港VIPルームで現地の方々とお会いし、『祝姉妹提携』の横幕の張られたキャンピングカーで、イレイン画廊につき、レセプションが開かれた。全く初めてお会いする方々ばかりであるが、本当にフレンドリーで、自由気ままに、ユーモア、ジョークをとばし、「クレージーードクター」の異名をいただい

た。また、夕食会においては、不思議なスキヤキをご馳走になった。その席上、私の落としたネームプレートをつけた隣のテーブルの人が、「アイアム、フジモト」と、大きなゼスチャーで呼びかけてこられたのには、全く参った。

翌日、市役所をはじめ各所を強行軍で見学した。広大な風土と建物。世界の穀倉地帯をいやというほど見聞し、その中で生活する人々のきびしさと楽天的なアメリカ人氣質を特に感じた。

調印式においては、質素な手造りの式典で、本当の意味での市民中心のパーティーである。運営には、ウーマンズクラブの会員がリーダーシップをとり、また、二世の方々の協力が特に印象的であった。

卒直な本音を語るアメリカ人と、本音と建前を使い分ける日本人が、人間と人間の交流、心と心のふれ合いにより、お互に異なる文化をのりこえ、頭でわかるだけでなく、心でわかり、体全体で相手の人格を認め合うことが最も必要であることを、今回の訪問によって強く印象づけられた。



親善訪問団一行

(ミネアポリス市庁舎玄関前で)

茨木市における国際交流の足あと

(昭和)年月

※文中のリ'市……リューベック市(西ドイツ)
ミ'市……ミネアポリス市(アメリカ)

53. 1 市制施行30周年の記念として、国際姉妹都市提携事業を企画。
3 市議会に対して、ヨーロッパの都市を中心として選定することを報告。
4 庁内部課長で構成する「海外友好都市提携事業専門委員会」を設置。以後、数次にわたり開催。
5 市民各界各層代表25人による「海外友好都市提携事業に関する懇談会」を設置。そこにおいて、海外姉妹都市提携事業を積極的に推進すべきであるとの意見を得、その旨、市議会幹事長会に報告。
6 松下眞一氏(茨木市出身、西独ハンプルク大学教授)から、リ'市との都市提携について推挙を得、上記専門委員会、懇談会にはかり、賛同と推進の意見を得る。
7 松下眞一氏、リ'市長、同議長と面談し、重富市長の親書を手渡す。
8 重富市長、山本助役ほか2人、リ'市を表敬訪問。
11 市制施行30周年記念式典にあたり、Dr. ローベルト・クニユッペル・リ'市長から祝電「我々両市において、お互いの発展のためよりよき友好関係が樹立されることを願ってやみません。」
11 市立図書館で、「リ'市紹介展」を開催。
54. 2 市民の井上香氏から、ミ'市との姉妹都市提携を行ってはどうか、との進言を得る。
3 デバノンスキー氏(ミ'市在住、IM社副社長)が重富市長を表敬訪問。「ミ'市は、茨木市との姉妹都市提携を希望している。」旨、ミ'市長の伝言を受ける。
4 本市からミ'市の真意、姉妹都市に関する担当責任者を照会。
7 リ'市議会議長から、重富市長あて祝賀会出席の招待状が届く。
11 リ'商工会議所会頭、同専務が重富市長、上田商工会議所会頭を表敬訪問。上田会頭宅で野立、盆栽鑑賞の後、歓迎夕食会が催された。
55. 1 加藤府議会議員ほか6人の市民有志がリ'市長、同議長を表敬訪問
4 ミ'市から親書「『ミ'市・茨木市姉妹都市委員会』を設置」
9 ミ'市議会、本市との姉妹都市提携を決議し、重富市長あての招請文書が送付される。
9 市議会幹事長会開催。(ミ'市との姉妹都市提携の報告と取扱い)
10 懇談会を発展的に解消し、「茨木市姉妹都市提携協会」を設立。
10 市議会幹事長会、議員総会開催。本会議において「ミ'市との姉妹都市提携に関する議決」
10 重富市長ほか市民代表18人、ミ'市を訪問し、姉妹都市提携を調印。
10 リ'市からグルナウ氏夫妻、茨木市を表敬訪問。
11 協会、理事会開催。(調印報告、予算、事業計画、委員会の設置について)
12 協会、臨時総会開催。(調印報告、予算、事業計画、委員会の設置決まる。)
12 「茨木市・ミ'市姉妹都市委員会」開催。(委員長等の選出と交流事業別専門部会設置)
56. 1 茨・ミ'市姉妹都市委員会、部会長会議を数次にわたり開催。(交流計画(案)検討)
1 ミ'市姉妹都市委員会委員ジェームス・ホフマン氏夫妻、茨木市を表敬訪問。
3 デバノンスキーIM社副社長ほか2人、茨木市を表敬訪問。
3 高橋盛典氏(大池一丁目在住)、リ'市長を、井上香氏夫妻、ミ'市長をそれぞれ表敬訪問。



重富市長らリ'市を訪問



上田会頭宅での交歓風景



加藤府議らリ'市を訪問

茨木市姉妹都市提携協会 ～設立総会～



去る昭和55年10月2日、市役所5階大会議室で、茨木市姉妹都市提携協会設立総会が開催されました。

まず、重富市長からの挨拶、設立総会に至るまでの経過報告の後、発起人会代表高島信義氏の議長により議事に入りました。そこで、井岡千代子さんから「協会設立趣意書」について説明があり、満場一致で承認。次いで会則、役員、委員会設置等について審議、それぞれ決定されました。ここに、茨木市姉妹都市提携協会は、記念すべき第一歩をのりました。

ミネアポリス市との姉妹都市提携調印のため訪問した代表者は次のとおりです。

○市代表

- 重富 敏之 (茨木市長) (ミ'市から招待)
- 藤井 光夫 (茨木市助役)

○市議会代表

- 椎原 末敏 (前茨木市議会議長)
- 塩貝 喜朗 (前茨木市議会副議長)

○市民(協会)代表

- 大友 康亘 (大阪府議会議員)
- 藤本 毅 (茨木ライオンズクラブ会長)
- 古谷 隆起 (茨木合唱連盟会長)
- 井岡千代子 (茨木消費者協会会長)
- 熊野弥寿彦 (茨木市体育協会会長)
- 長嶋 シズ (茨木市地域婦人団体協議会会長)
- 田中 信次 (茨木市労働組合協議会代表幹事)
- 山下 克彦 (海外有識者)

○その他随員

- 重富アキエ (茨木市長夫人) (ミ'市から招待)
- 楠本 政義 (茨木市議会事務局)
- 村山 和一 (茨木市姉妹都市提携協会事務局)
- 千葉 邦英 ()
- 生田 豊彦 ()
- 小林 潔 ()

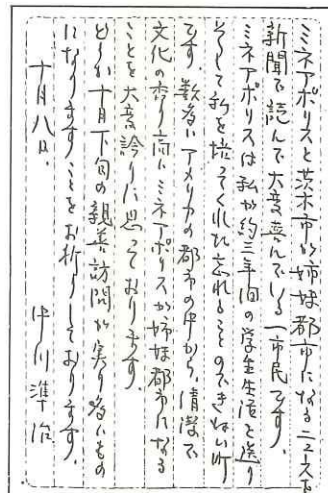
ミ'市との姉妹都市提携を期待して



茨木市東奈良三丁目

十一—D—八〇二

中川 準治



茨木市姉妹都市提携協会 役員紹介

茨木市姉妹都市提携協会役員名簿

(昭和56年4月1日現在)
敬称略、順不同

役職名	氏名	所属団体名および役職名
会長	重 富 敏 之	茨木市長
副会長	石 井 巖	茨木市議会議長
〃	上 田 秀 一	茨木商工会議所会頭・茨木フェスティバル協会会長
〃	高 島 信 義	茨木市社会福祉協議会会長
会計(理事)	塚 治	茨木市収入役
監 事	石 賀 濟	茨木美術協会会長
〃	池 尻 高 芳	茨木市総務部長
顧 問	大 友 康 亘	大阪府議会議員
〃	加 藤 法 瑛	〃
参 与	小 矢 田 幸 雄	茨木市議会副議長
〃	山 本 末 男	茨木市助役
〃	藤 井 光 夫	〃
〃	藤 井 了 貞	茨木市教育委員会委員長
理 事	中 内 稔	茨木市農業振興団体連合会会長
〃	奥 仲 芳 光	茨木市労働組合協議会代表幹事
〃	千 羽 信 章	茨木市立小学校長会副会長
〃	上 田 進 啓	茨木市P・T・A連絡協議会会長
〃	長 嶋 シ ズ	茨木市地域婦人団体協議会会長
〃	高 原 信 三	茨木青年会議所副理事長
〃	寺 野 福 男	茨木市歯科医師会会長
〃	樋 口 義 明	海外事業経験者(大洋パッキング株代表取締役)
〃	井 岡 千 代 子	茨木消費者協会会長

(次ページへつづく)

(役職名) (氏名) (所属団体名および役職名)

理事	熊野 弥寿彦	茨木市体育協会会長
〃	山崎 憲太郎	関西大倉高等学校校長
〃	辻本 一男	日本ボーイスカウト大阪連盟茨木第1団団委員長
〃	古谷 隆起	茨木市合唱連盟会長
〃	松田 寿春	茨木市青少年野外活動協会会長

茨木市・ミネアポリス市姉妹都市委員会委員名簿 (昭56.4.1現在・敬称略・順不同)
 (◎印: 委員長・○印: 副委員長)

氏名	所属団体名および役職名
◎井岡 千代子	茨木消費者協会会長
○長嶋 シズ	茨木市地域婦人団体協議会会長
島 静太郎	茨木商工会議所専務・茨木フェスティバル協会副会長
奥仲 芳光	茨木市労働組合協議会代表幹事
千羽 信章	茨木市立小学校長会副会長
中西 利広	茨木市立中学校長会会長
上田 進啓	茨木市P・T・A連絡協議会会長
藤本 毅	茨木ライオンズクラブ会長
佐藤 康造	茨木ロータリークラブ会長
川本 富三	茨木東ロータリークラブ会長
高原 信三	茨木青年会議所副理事長
樋口 義明	海外事業経験者(会社役員)
熊野 弥寿彦	茨木市体育協会会長
古谷 隆起	茨木市合唱連盟会長
谷 隆一	茨木市吹奏楽団団長
井上 信雄	茨木市こども会育成連絡協議会会長
大田 耕造	茨木市スポーツ少年団本部本部長
高橋 成典	茨木市音楽文化協議会会長
辻本 一男	日本ボーイスカウト大阪連盟茨木第1団団委員長
中江 節子	ガールスカウト大阪府第53団団委員長
池田 秀次郎	茨木市住みよいまちづくり市民運動推進連絡協議会副会長

会員を募っています

国際親善に熱意を持ち、とりわけ文化の香り高いミネアポリスに関心を持っておられるかたがたの入会を心からお待ちしています。

詳しくは、協会事務局（茨木市役所市長公室人事課）へお尋ねください。

寄附報告

次のかたがたからご寄附をいただきました。ありがとうございます。〈敬称略〉

55. 10 樋口義明（大洋パッキング株式会社代表取締役）10万円
56. 1 昭和ゴム株式会社大阪支店
軟式野球ボール3ダース

茨木市姉妹都市
提携協会

会員加入 状況

本協会の発足、ミネアポリス市との提携の成就に伴い、昨年12月8日開催の臨時総会において、「会員募集」を行うことなどが決められました。今後、市民主体の活発な交流を展開し、友好、親善を深めることにより、国際社会の一員として視野を広げ、相互理解を通じて両市の繁栄に貢献するため、「国際親善に熱意を持ち、とりわけ文化の香り高いミネアポリス市に関心をお持ちの方は、是非、会員になってください。」と呼びかけ、その結果、本年4月1日現在で145人のかたがたの加入をいただいております。

会員は、個人、法人を問わず、入会金、会費は不要です。会員になりますと「協会報」が送られるほか、活動内容等を決める総会に出席して意見を反映できます。また、会員の要望に応じて可能なお手伝いや、交歓会への出席、また、ミネアポリス市への訪問などの活動に参加できます。

文通希望者募集

ミ市民（中・高・大学生が中心）
とお友だちになりませんか

BY AIR MAIL
PAR AVION

この機会に、手紙を通して知識、趣味あるいは生活、人生のことなど幅広い人間交流に積極的に参加しましょう。国際交流の担い手はあなたです。お気軽にお申し込みください。

ご希望の方は、申込書に住所、氏名、年齢、性別、職業（在学中の人は学校名と学年）、趣味、交流相手の希望等を記入のうえ、協会事務局（市役所3階、人事課）へ持参またはご送付ください。